

京都市北図書館だより

むらさきのつうしん

テーマ ～春の訪れ～

第23号

2023年2月発行

寒さの中にも、少しずつ暖かい日差しが感じられるようになった今日この頃。新しい春はもうすぐそこまできています。卒業、進級、新生活……この春から新しい環境に飛び込んでいくという人も多いのではないのでしょうか。また、過ごしやすいこの季節に、何か新しいことを始めたい！という人も多いのでは。みなさんは、春と聞いて何を思い浮かべますか？

今回の北図書館職員、オススメ本紹介のテーマは、“春の訪れ”です。ドキドキ、わくわく、それともちょっぴり不安？ この機会に、いろいろな春に思いをはせてみませんか。

『ぱらっぱフーガ』

竹内 真／作
(双葉社 2015)



高校でも吹奏楽をしようと、吹奏楽部の名門校を受験する風香（ふうか）と有人（あると）だが、風香が受かり有人が落ちてしまいました。この物語はここから始まります。互いに吹奏楽の楽しさや厳しさ、おかれた環境の違いを痛切に感じながらも明るく楽しい高校生活が描かれています。春になり新しい生活に不安な人もこの作品のようにガンバレ～。

『桜の声』

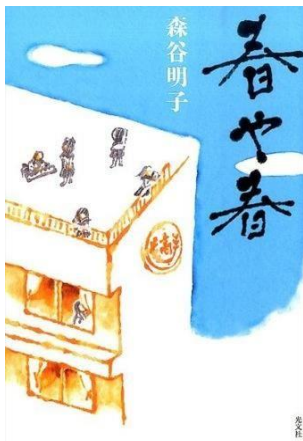
『コンビニたそがれ堂』より
村山早紀／作
(ポプラ社 2010)



コンビニたそがれ堂で、かわいいピンクの携帯ストラップを買った桜子。公園の満開の桜の下で、まるで戦争中のような、昔の恰好をした少女を見つけます。そして、まるで未来から届いたかのようなメール……。桜に思いをはせ、幸せを願う人たちとの、時空を超えた不思議な出会いを体験します。

『春や春』

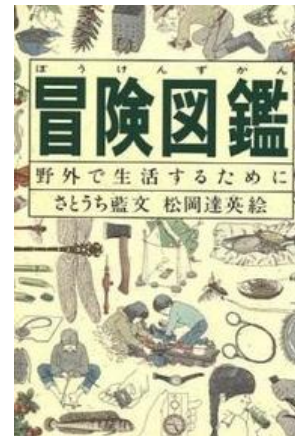
森谷 明子／作
(光文社 2015)



「花吹雪 今朝の夢を 忘れた」。清楚なセーラー服の名門女子高での、タイクツな毎日。そんな春まだ浅い日、何気なく開いた本の、ある俳句に魅せられた茜は、仲間を集めて俳句同好会を設立、俳句甲子園への出場を目指す……。フツーでハイボンな毎日の風景が、鮮やかに動き出す瞬間がステキな物語です。

『冒険図鑑』

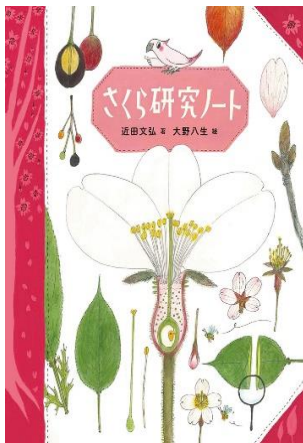
さとうち 藍／文、松岡達英／絵
(福音館書店 1985)



過ごしやすい日が増える春におすすめの本は、冒険の本です。高2、中2、小5、小4の4人でキャンプに行く設定で描かれています。普段の生活でも充分使える便利なスキルも紹介され、分かり易く解説してあります。例えばP.146の【アルミはくを使った料理】は、本当に簡単に美味しく出来ますよ！ぜひ、一度試してみてください。ここ最近、災害も増えてきました。被災したときにも使えるし、いざという時に生き抜く知恵も増えるはず。

『さくら研究ノート』

近田文弘／作、大野八生／絵
(偕成社 2017)



春といえばさくら！でもさくらのこと、どれくらい知ってる？花は冬の間どうなってる？さくらの幹からさくらが生えてるのってどうして？桜餅って一種類じゃないの？さくらって種類があるの？きれいなイラストのこの本で、さくら博士になって、お花見の季節を迎えましょう！

『冬眠のひみつ からだの中で何が起きているの？』

近藤 宣昭／監修
(PHP 研究所 2017)



『冬眠のひみつ』近藤宣昭監修 (PHP 研究所)

「寒い冬は苦手、いっそ春まで冬眠したい！でも、そもそも冬眠ってなんだ？」なんて思ったことがある人はいませんか？そんな疑問に答えてくれるのがこの本です。冬眠の仕組みから動植物それぞれの冬眠方法まで、普段なかなか目にする事のない生きものたちの生態を知ることが出来ます。それぞれに工夫を凝らし、厳しい冬を乗り切る彼らの姿から近づく春に思いを巡らせるのはいかがでしょうか。

『14歳、明日の時間割』

鈴木 るりか／作
(小学館 2018)



国語、家庭科、数学、道徳、などの学校の時間割に見立てた7つの物語を読むことができます。現在、学生の方はもちろん、大人の方まで幅広い世代で楽しむことができる一冊になっています。物語の終わりごとにイラストが描かれているのでそこにも注目です。

『みどりのゆび』

モーリス・ドリュオン／作、安東 次男／訳
(岩波書店 2002)



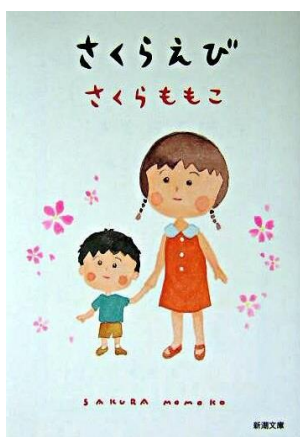
春といえば、花々が咲き乱れる季節。この物語の主人公チトは、どんな花でも芽吹かせる不思議な指を持っています。チトが触れると、その場所はたった一晩でたくさんの花々に包まれるのです。そんなチトから見た大人たちの姿には、考えさせられることがたくさんあります。新しい春を前に、皆さんもチトと一緒に「大人が当たり前だと思っていること」について考えてみませんか。

生き方探究・チャレンジ体験に来てくれた！

中学生のオススメ本

『さくらえび』

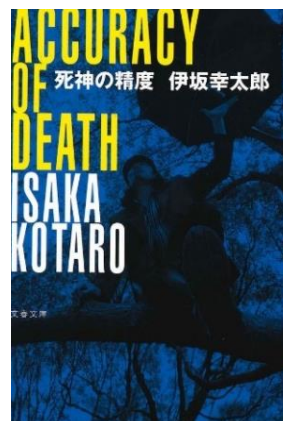
さくらももこ／著
(新潮社 2002)



ちびまる子ちゃんの作者、さくらももこさんのエッセイ本です。読みやすく笑える文章や、かわいい挿し絵があり、スラスラと読めてしまいます。

『死神の精度』

伊坂幸太郎／著
(文藝春秋 2008)



この本の主人公は「死神」です。この本の死神は、一週間の調査ののち、対象者の死に可否の判断をします。本に出てくるいろいろな人間の思いや感情を、死神という新しい視点で見ることができます。

お詫びと訂正

2022年10月発行・むらさきのつうしん 22号の掲載内容に誤りがありました。大変申し訳ございませんでした。正しくは以下の通りです。

『戸村飯店青春 100 連発』

瀬尾まいこ／著
(文藝春秋 2012)



大阪の下町にある中華料理店。配達に行くと飴を一掴みくれるおばちゃん、常連のクセの強いおっさんたち、ぽんぽん飛び交うテンポのいい会話、ボケとツッコミ。みんなそれぞれ悩みを抱えて生きているのだけれど、なんだか面白くてあたたかい。登場人物みんなが愛おしくて、読むと元気がもらえる一冊です。

京都市北図書館

〒603-8214

京都市北区紫野雲林院町 44-1

TEL 075-492-8810

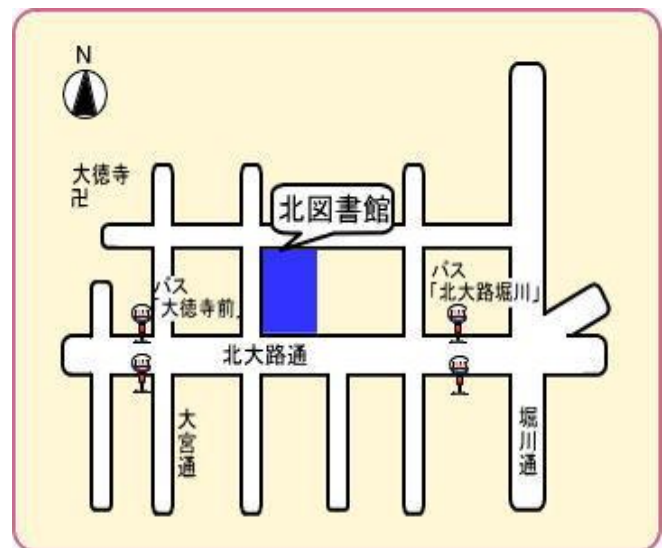
開館時間 平日 9:30～19:00

土日祝 9:30～17:00

休館日 毎週火曜日（祝日の場合は翌日）

URL <http://www2.kyotocitylib.jp/>

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、開館時間が異なる場合がありますので、ご注意ください。
くわしくは、ホームページをご確認ください。



★京都市図書館で本を借りるときは図書館カードが必要です。カードの発行には、住所、氏名を確認できるものが必要です。